

コロナ禍の新社会人生活

ながれ

吉見 稔里 (よしみ みのり / 2019年度インターン生)

新型コロナウイルスの影響で”Stay Home”生活が始まり、約4か月がたちました。そのような自粛生活の中で私は4月から新社会人となりました。在宅勤務は、先輩の仕事に向かう姿勢・業務実施方法を見て学ぶ、といったことや、休憩時間や仕事終わりの食事会等を通じて仕事に関するお話を聞けないといったマイナス面があります。しかし、今回は上記のようなデメリットではなく、新社会人生活の中で考えた”Stay Home”のメリットについて3つほど書きたいと思います。

1つ目は、仕事と私生活の時間のバランスです。私は、これまで3回ほどオフィスに行ったのですが、オフィスに行く日は出勤準備や通勤時間を含め、仕事関連のことで一日の大半が過ぎます。しかし、在宅勤務の日は、出勤日と比較し3時間ほど自分の時間が増えます。そのため、在宅勤務の日は、自分の時間を十分に使い、好きな映画を見たり、本を読んだり、資格の勉強をしたりと私生活を楽しんでいます。私生活を充実させることで仕事に対してもストレスなく前向きに取り組むことが出来ているように感じます。入社前は、仕事に追われる20代を想像しており、そのような生活に少し憧れもありましたが、今は、自分の時間を十分に持って、仕事だけではない私らしい生活を続けたいという思いが強くなりました。

2つ目は、家族との関わり方です。自粛生活が始まってから家族と過ごす時間が何倍にも増えました。私の家族のほとんどは、現在テレワークを基本としています。そのため、昼食も夕食も家族そろって食べることが増えました。また、休日も家族が揃うことが多く

なりました。これまでは、各自の仕事や学校等が生活の中心となっていました。自粛生活においては、家で家族と過ごす時間が生活の基本となりました。メディア等で“お家時間”の特集が生まれ、家で家族と楽しめるグッズが紹介されているのを見ると、日本中でより多くの時間を家で家族と過ごす人が増えたのだと感じます。自分含め、日本中でコロナが収束しても、家族との時間を大切にすることが続いてほしいと思います。

3つ目はオンライン上での人との関わりの可能性です。私は、会社の研修を全てオンラインで行いました。そのため、ほとんどの同期には実際にあつたことがありません。しかし、研修中のグループワークやオンラインランチ、オンライン飲み会を通じて、まだ会ったことがないということのを忘れるくらい仲良くなり、研修が終わった今でも、オンライン飲み会を開催し、お互いの近況について話しています。自粛生活はまだまだ続きそうですが、外出出来ないからと言って人との繋がりがまで諦めてしまうのではなく、オンラインでの関わりが普通な今だからこそできる、人との繋がり方、出会い方を楽しみたいと感じています。

コロナ流行前は当たり前に行っていたことが出来なくなった現在、不自由することたくさんあります。しかし、現在の生活を送ることで気が付いた良い面はしっかりと吸収し、コロナ収束後の人々の生活がコロナ以前の生活よりも精神的に豊かなものになれば、と願います。そして、私自身、今回の経験を活かし、自分にとって幸せな生活とはどのようなものなのか、ということを考えていると思っています。